

2015年度 新卒看護師教育システム 新卒看護師教育スケジュールパス

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
基本的な進行	○集合研修 ○OJT実施・ケア見学・一部参加 ○日勤のみ・定時に業務終了	○受持ち：前半1-2名 後半2-3名 ○教育担当者・メンターがフォロー ○日勤のみ・定時に業務終了	○(日勤・夜勤ともに)受持ち3-5名 ○夜勤オリエンテーション人員+1配置	○基本技術の取得状況にあわせ (日勤・夜勤ともに)受け持ちの数、患者の重症度等をあげていく ○教育担当者のフォローをつける					○ひとり立ち: ただし、未習得の技術・一年はひとりでは行わない技術については、確認しながら行う				
記録		○受け持ち開始時に記録開始(メンター以上が必ずフォローする)	○一人で受け持ち開始時から、フォローなしで記録実施										
※看護基本技術	a. 環境調整技術 □ベッド周囲の環境整備(温・湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備) □基本的なベッドメイキング □基本的なリネン交換												
水準1 (厚生労働省による)	b. 食事援助技術 □疾患別の食事の理解 □対象の個性に応じた食事の工夫と援助								□※誤嚥のリスクをアセスメントした食事の工夫 □栄養状態・体液・電解質バランスのアセスメント				
	c. 排泄援助技術 □便器・尿器を当てる介助 □オムツ交換 □留置カテーテル挿入中の観察(尿の性状・量等)								□排泄のアセスメントと援助				
	d. 活動休息援助技術 □車椅子での安全な介助・移送 □ストレッチャーでの安全な介助・移送 □良肢位の保持 □ボディメカニクスの知識や技術を用いた体位変換 □食事・排泄・清潔・騒音等の環境を整え睡眠の質を高める												
	e. 清潔衣生活援助技術 □清拭 □洗髪 □口腔ケア □陰部ケア □対象者の個性に応じた部位浴 □入浴時の援助・※沐浴 □※寝衣交換などの衣生活支援(臥床患者) □※寝衣交換などの衣生活支援(輸液等挿入患者)												
	f. 呼吸循環を整える技術 □酸素吸入療法中の管理(対象の観察・指示量や加湿・接続の確認) □体温調整方法の実施(※熱傷のリスクを考えた温電法・冷電法) □ネブライザーの実施						□※口腔・鼻腔吸引		□血液ガス分析データの解釈				
	g. 創傷管理技術 □滅菌物の取り扱いができる								□褥創の予防ケア				
	h. 与薬の技術 □原理・原則に基づいた与薬 □経口薬の与薬 □外用薬の与薬(点眼・塗布・座薬など) □皮下注射 □皮内注射 □筋肉注射 □静脈内注射の準備と介助 □点滴静脈注射の準備・介助・管理 □輸液ポンプの準備と管理 □シリンジポンプの準備と管理 □抗菌薬、抗ウイルス薬等の用法の理解と副作用の観察 □インスリン製剤の種類、用法の理解と副作用についてのアセスメント □消毒薬の種類と作用・用途・取り扱い						□向精神薬の種類・用法の理解と主作用副作用の観察、取り扱い □中心静脈栄養の準備と介助・管理						
	i. 救命救急処置技術 □意識レベルの観察 □呼吸状態の観察 □脈拍の観察、 □チームメンバーへの応援要請 □救急カートの場所と物品内容の把握								□気道確保 □口腔内の観察と異物除去 □人工呼吸の準備と方法 □心臓マッサージ □除細動器の準備と必要性の把握 □外傷性の止血の介助				
	j. 症状・生体機能管理技術 □呼吸、脈拍、体温、血圧を正しく測定 □呼吸、脈拍、体温、血圧測定値の評価、記録と報告 □身長、体重を正しく測定 □身長、体重測定値の評価(栄養状態や発達の状態) □症状・病態を正確に観察 □観察した症状、アセスメントの記録と報告 □採血検体の取り扱い □動脈血採血(血液ガス・※培養)の準備と検体の取り扱い □採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い □血糖測定と検体の取り扱い □24時間持続心電図モニター管理								□静脈血の採血と検体の取り扱い				
	k. 感染予防の技術 □スタンダードプリコーション(標準予防策)が実施できる □洗浄・消毒・滅菌のうち、適切な方法の選択 □適切な手洗いの方法 □防護用具(ガウン 手袋 ゴーグルなど)の使用方法 □使い捨て注射器、注射針、刃などの耐貫通性の専用廃棄容器に廃棄(針刺し 切創、粘膜暴露等による感染防止対策と事故後の対応)												
	l. 安全管理の技術 □当該設置における医療安全管理体制の理解 □対象に応じた転倒・転落予防策の実施 □対象に応じた抑制ができる □感染防止のために手順を守り与薬できる □インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告												
	m. 安楽確保の技術 □(対象に合わせた)安楽な体位の保持								□※対象に合わせた適切な温電法・冷電法の実施 □※対象に合わせたリラクゼーション(指圧・マッサージ・音・香りの工夫等)				
	n. コミュニケーション技術 □エルダー・メンター、先輩看護師に自分の考えが言える □対象者の話が聴ける □電話に対応できる												
	o. その他												
現任教護部教育委員会	○JIT評価	○手指衛生と防護具の着脱 ○体位変換 ○車椅子による移送 ○ベットからストレッチャーへの移動 ○就床患者のシーツ交換 ○就床患者の全身清拭 ○酸素吸入 ○酸素吸入(酸素ポンプ) ○与薬 内服 ○簡易血糖測定 ○心電図モニター	○接遇 身だしなみ	○与薬輸液 ○与薬 皮下・筋肉注射 ○輸液ポンプ ○シリンジポンプ ○床上排泄患者の介助	○吸引 ○気管吸引	○食事介助 水準2○経管栄養 ○輸血療法 ○導尿 ○ししかんネブライザー ○排便 ○洗腸							
	集合研修ステップI(予定)	○看護記録 ○感染対策 ○医療事故対策	○感染対策 ○医療事故対策	○感染対策 ○個人情報保護	○医療事故対策								
		○看護倫理 ○教育と指導	○看護倫理 ○研究の方法と実践 ○看護管理	○教育と指導	○看護倫理 ○研究の方法と実践 ○看護管理								
評価	○看護基本技術評価表 ○基本姿勢・態度評価 (自己評価、教育担当者評価) __入職時	○看護部チェックリスト評価 ○看護基本技術自己評価表 ○基本姿勢・態度評価 (自己評価、教育担当者評価)		○クリニカルラダー (個人目標中間評価)	○師長との面接 (個人目標中間評価)	○看護部 チェックリスト評価	○看護基本技術 自己評価表 ○基本姿勢・態度 評価 (自己評価、教育 担当者評価)		○杏林メディカルフォーラム ○クリニカルラ ダー ○看護基本技術 自己評価表 ○基本姿勢・態度 評価(自己評価、 評価(自己評価、 評価(自己評価、	○看護部 チェックリスト ○師長との目標面 接 (年間評価)			
ポートフォリオ	○用紙①②記入(管理監督職・教育担当者とともに)	○用紙②④「場面の再構成用紙」成長報告書」記入とフィードバック ○オープン評価(集まって行うことは必須ではないができてと望ましい) ○用紙①見直し(必要時)		○用紙②④「場面の再構成用紙」成長報告書」記入 ○オープン評価(集まって行うことは必須ではないができてと望ましい) ○用紙①見直し(必要時)									
	○用紙③は、原則毎日記入 ただし状況に応じて記載頻度は変更可 (教育担当者・チームメンバー・管理監督職は記載内容確認肯定的評価を返す)												
話し合い	○新卒看護師・エルダー・メンター・教育担当者毎月 ○管理監督職・教育担当者(必要時エルダー・メンター)毎月 ○教育担当者会議 4月28日(火)		○教育担当者会議 6月 日()		○2年目教育担当者会議 9月 日()	○エルダー研修 10月	○メンター研修 11月	○教育担当者会議12月 日()		○教育担当者会議 2月 日()			
アウトカム	○アプリコット研修が受講できる ○日勤の流れが理解できる ○水準1 6月達成の技術を習得できる。 ○看護部OJTが合格する ○支援をうけながら、複数の患者を受け持ち、水準1 6月達成の技術を安全に実践できる。 ○受け持ち患者に関する水準2のケアを見学・一部先輩とともに実践できる ○5WIHを含む記録が正しくできる。 ○1年間の進行がわかり今後の目標が立案できる ※全部署での集まりまでに、看護基本技術の習得評価を行っておく。 ※集合研修の予定は変更になることがある。また、研修トピックスについては、後日詳細決定後伝える。			○夜勤の流れが理解できる。 ○水準1 11月までに達成の技術を習得できる。 ○看護部OJTが合格する ○支援をうけながら複数の患者を受け持ち、水準1 11月までに達成のケアをひとりでは提供することができる。 ○受け持ち患者へ、水準2の技術を、先輩看護師とともに安全に実践することができる。					○複数の患者を受け持ち、水準1のケアについては一人で、水準2のケアについては、先輩と供に安全に実践できる ○水準3のケアを見学できる ○看護部OJTが合格する				

2008.3.10 作成
2014.3.14 改訂

水準2 の技術項目
□※誤嚥のリスクをアセスメントした上での食事介助援助 □経管栄養法を手順に基づいて安全に実施(※栄養剤・流動食の注入) □留置カテーテルの挿入と取り扱い □摘便 □洗腸 □導尿
□自動・他動運動の援助(廃用症候群予防・関節可動域訓練)
□※ 誤嚥のリスクをアセスメントした上での口腔ケア、□※寝衣交換支援(呼吸器装着者)
□気道内吸引の実施 □呼吸理学療法
□創傷(手術創を含む)処置の介助と観察 □褥創の処置と観察
□輸血の種類・血液型・氏名の確認・取り扱い □輸血中・後の副作用の観察とバイタルサインの測定 □麻薬の種類・用法の理解と主作用副作用の観察、取り扱い □毒薬・劇薬の取り扱い
□気管内挿管の準備と介助
□心電図(12誘導)の測定
□無菌的な気管内吸引
□死後のケア
水準3の技術項目
人工呼吸器(バイパップバラックを含む)の操作 低圧胸腔内持続吸引器の操作□※人工気道の解剖学的な位置付け機能・呼吸器回路の構造を理解した上での※人工呼吸器装着中の患者のケア・気管切開患者のケア 胃管の挿入

2015年度 新卒看護師教育システム 2年目看護師教育スケジュールパス 2

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基本的な進行		<p>○技術確認が終わっている患者のケアはひとりで行うが未確認のものについては、必ず先輩看護師と共に行う</p> <p>○未修得の技術については、計画的に技術確認(OJTにて)を行う</p> <p>○技術確認が終了しているもの(看護部OJTチェックリストにある内容については、それに合格しているもの、看護部チェックリストにないものについては、病棟ごとに決めた確認内容について合格しているもの)については、アプリコットの指導を行う</p> <p>○確認(合格)していないことについても、共に学習・練習・相談に乗るなどして、積極的にアプリコットの教育に関わる</p>											
記録													
※看護基本技術 水準1 2 3 (厚生労働省による)	a. 環境調整技術												
	b. 食事援助技術												
	c. 排泄援助技術												
	d. 活動休息援助技術												
	e. 清潔衣生活援助技術												
	f. 呼吸循環を整える技術												
	g. 創傷管理技術												
	h. 与薬の技術												
	i. 救命救急処置技術												
	j. 症状・生体機能管理技術												
	k. 感染予防の技術												
	l. 安全管理の技術												
	m. 安楽確保の技術												
	n. コミュニケーション技術												
	o. その他												
現任教看護教育委員会	OJT評価 集合研修												
評価	○看護基本技術自己評価表												
	○看護部チェックリスト評価 ○看護基本技術自己評価表												
	○クリニカルリーダー ○看護基本技術自己評価表												
	○看護基本技術自己評価表												
	○クリニカルリーダー ○看護基本技術自己評価表												
ポートフォリオ	○個人目標設定(師長との面接)												
	○個人目標評価、次年度の目標設定												
	○個人目標評価、次年度の目標設定(師長との面接)												
話し合い	○新卒看護師・エルダー・メンター・教育担当者毎月 ○管理監督職・教育担当者(必要時エルダー・メンター)：毎月												
	○教育担当者会議												
	○教育担当者会議												
	○エルダー研修												
	○メンター研修												
	○教育担当者会議												
	○教育担当者会議												
アウトカム	<p>○水準1の技術を用い、複数の患者を受け持ち、安全にケアできる。</p> <p>○看護部OJTの全項目合格している。</p> <p>○受け持ち患者へ、水準2の技術を、先輩看護師とともにあるいは技術確認後は一人で、安全に実践することができる。</p> <p>○ANSSIにおける自らの役割を述べることができる(アプリコットの精神的支援)</p> <p>○1年間の進行がわかり今後の目標が立案できる</p>												
	<p>○水準1および2の技術を用い、複数の患者を受け持ち、安全にケアできる。</p> <p>○受け持ち患者へ、水準3の技術を、先輩看護師とともにあるいは技術確認後は一人で、安全に実践することができる。</p> <p>○ANSSIにおける自らの役割を理解し実践できる(アプリコットの精神的支援)</p>												
	<p>○水準1～3の技術を用い、複数の患者をうけもち安全にケアが提供できる</p> <p>○ANSSIにおける自らの役割を理解し実践できる</p>												

※全部署での集まりまでに、看護基本技術の習得評価を行っておく。
※集合研修の予定は変更になることがある。また、研修トピックスについては、後日詳細決定後伝える。